



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112



繋がりに感謝!

34回生 岡本 英明

こんにちは。34回生の岡本英明と申します。今年で高校を卒業して早くも16年が経過しました。もうすぐ、高校時代の倍の年齢に差し掛かるうとしています。

私は高校卒業後、大学に進学。一時は大学院で海外への留学も考えましたが、最終的には新卒で国内のコンサルティング会社へ就職。そして28歳の時に、城北サッカー部の同期だった山口修平君と一緒に独立・起業しました。「スペシャリティコーヒー」という品質の高い珈琲に特化し、珈琲豆の輸入・焙煎・小売や卸売での販売を行う事業を柱として取り組んでおります。お店の名前は「OBSCURA COFFEE ROASTERS (オブスキュラコーヒーロースターズ)」という覚えにくい名前ですが、写真の原型(ピンホールカメラ)となったカメラオブスキュラというラテン語の名称に由来するものです。そこから6年経過し、今年の4月に念願の広島店を袋町にOPENすることができました。(先日の宮本先生のコラムでもご紹介頂きました。ありがとうございます) http://saijodan.com/column/15/vol.184.html

広島にお店をOPENすることが決まり、初蹴り以外で来ることのない広島城北高校に久しぶりに訪問し、新しい校舎の中や教員室・食堂などに初めてお邪魔させて頂きました。新しい校舎にびっくりすると同時に、先生方とお話しして気付いたのは、「とても大人だと思っていた先生が顧問をされていた年齢と、今の自分の年齢が同じである」という驚愕の事実です。「今の自分が、あのころの先生方と同じように生徒を指導できるだろうか?自分は果たして成長できているだろうか?」と思わず自問自答してしまいました。

高校卒業後は初蹴りなどにも定期的に顔を出させて頂いておりましたが、初蹴りなどで出会うOBの方々に大変お世話になり、広島OPENの際にも同期をはじめOBの皆さんにたくさんのお世話を頂くことができました。この場を借りて御礼申し上げます。また、宮本先生、岩井先生、黒瀬先生にはいつも気にかけて頂き、広島のお店がOPENする前から何かとお世話になりました。ありがとうございます。さらに裕治郎さんと菊さんからはお花を、平岡さんからはお祝いを、同期からは植物を頂き、そしてマルニ木工の山中さんと土井さんにはお店の椅子をお祝い価格で譲っていただきました!皆さま本当にありがとうございます。城北サッカー部でのつながりが、高校3年間だけでなくその後の人生においても大切なつながりとして続いていくことを改めて実感させて頂きました。学生時代に、同じグラウンドで一生懸命になった同期・先輩後輩という関係は、他では得難いものだと思いますし、現役時代をお互いに真剣に

過ごしたからこそ、絆も深くなるのだと思います。コーヒー業界は、産地への買い付け消費国側のやりとりや繋がりが多くなりやすい。そんな時にも、「学生時代はサッカーをやっていた」という話は世界中で共通の話題であり、「俺もサッカーやっていたよ。ポジションはどことだった?」などの会話のきっかけにもなり、そこから仲良くなったりすることもあります。学生時代に打ち込んでいたものがあつて、本当に良かったと感じています。これからも最上段スピリットを胸に、Play Hard Together, Smile Hard Together! を実践していきたいと思えます。また最上段でお会いしましょう!



感謝の大切さ

47回生 三鼓 拓

こんにちは。はじめまして。47回生の三鼓 拓です。先日、学校を訪れた時、宮本先生からOB会報誌の依頼を受けまして、今回書かせていただくことになりました。

まずは、私の今の近況についてですが、鹿児島の鹿児島大学で経営学を学んでいます。今年4年生となり鹿児島での生活に慣れてきたものの、桜島の灰だけには慣れることができません。先日は夜の寝ている間にドカ灰があり、朝起きた時には洗濯物が灰まみれになりました(笑)。でも、その洗濯物についた灰を叩いて着ることができるような神経の図太さになったのは、4年間での成長だったと思います(笑)。

前述したように、大学では経営学を学んでおり、鹿児島の様々な経営者と交流をする機会があったり、また就活中ということで、全国様々な社会人と会う機会があったりと、大学生になつてから多くの社会人、特に企業などの組織に所属する人たちと交流する機会が増えました。私自身もこれまでサッカーを長くやってきており、サッカー部やサークルなどの「チーム」に属してきました。そんな組



織に所属する社会人と自分自身を比べた時に、私に足りなかったことは「謙虚さ」であるとわかりました。会社のような場所はいろいろな考えを持つ様々な人が存在します。一人で生きていけるのであれば、このような多様性を無視しても大丈夫ですが、そういうわけにはいきません。考え方の違う人とチームとして何かを成し遂げるためには、相手のことをはねのけるのではなく、受け止めることができる広い心、謙虚さが大切だと思います。自分では、謙虚であると思っていました。が、やはり、まだまだ足りないと感じました。このようにことをいろいろと考えていた時、ふと頭によぎったことは、最上段で宮本先生はよくおっしゃっていた「感謝」という言葉でした。現役時代、よくこの言葉を先生がおっしゃっていたことを聞いてはいましたが、あまり真に受けていませんでした。しかし、今は「感謝」はとても大切だと思います。感謝の気持ちを表現できるということは、相手の行為に対して、ありがとうと思える謙虚な姿勢でなければなりません。感謝ができる謙虚な姿勢だと、相手のいいところが見えてくる、相手のことが理解できるようになる、と思います。今、最上段でサッカーを頑張っている後輩の皆さんは、ぜひ家族、先生、城北サッカー部を支える様々な人、そしてチームメイトに対して、感謝の気持ちを持つてほしいと思います。



自分なりの「自信」を！

48回生 竹本 洋一

はじめまして。48回生の竹本洋一です。岩井先生にお話をいただき、今回OB日記を書かせていただくことになりました。

僕は神戸市外国語大学に通っており、今年英米学科3年生になりました。もともと英語が好きだったので外国語大学に進学することを決めたのですが、授業はオールイングリッシュのものがあったり、ネイティブスピーカーや帰国子女がクラスに多々いるなど、刺激を受けやすい環境が整っているため、英語が好きな高校生の皆さんはぜひ外国語大学に進学することをお勧めします。

部活は弓道部に所属しており、最初は何か大学では新しいことを始めたいという安易な気持ちで入部したのですが、今では週6日、弓道に没頭しています。弓道はとても奥が深く、入部から2年たった今でも全体的にあたらないときがあり悩むことも多いのですが、そういう苦労があるからこそ試合で勝った時とてもうれしく、それが弓道の醍醐味だと感じています。(どのスポーツでも同じようなことが言えるのですが)



大学の話はさておき、中学高校では6年間広島城北サッカー部で汗を流しました。主に中学校ではBチーム、高校ではライノスでプレーしており、主力選手にはなることができませんでしたが、他の偉大な先輩方のような素晴らしいアドバイスはすることができず、僕だから言えるアドバイスをしようと思いません。

自分に「自信」を持つようにしてください。自身、6年間を振り返ってみて、何が足りなかったのかを考えると、自分に自信がもてなかったことが一番大きかったです。僕は足下の技術がなく、それがネックでいつも「ミスしたらどうしよう」という不安を抱えたまま試合に臨んでいました。でも周りを見てみると、全てを完璧にできる人はごくわずかです。ほとんどの人は何かしら欠点がありました。それでも主力選手たちはみんな自分の長所に目をむけ、そこに自信を持っていました。僕は身長が高くフィジカルはあったので、それを信じて自信に変えることができていけば、よりよいプレーができ、そして無駄な不安を感じずのびのびとサッカーができていたと思います。ヘディング、切り返しの速さ、声の大きさ、練習量など、ほんの小さなことで構わないので、自分なりの「自信」を探してみてください。試合で緊張した時や不安な時に、その「自信」が必ず支えになってくれます。

OB会報 (プリント)

広島城北高校サッカー部OB会長

19回生

吉川 英司

「ただいま。」私自身、平成元年に全国転勤の会社に入社し、地元広島で3年間勤務。その後、全国各地(北関東・九州・大阪等)を転勤して歩きこの4月の異動で23年振りに、広島勤務となりました。OB会長の吉川です。

帰ってきて、すぐ行った店が「中ちゃん」。知る人ぞ知る、鉄板焼きの名店です。この店は私が新入社員で入社した広島支店の寮の先輩が教えてくれた店で、たしか広島商業のOBがマスターの中ちゃん、当時狭くともお世辞には綺麗とは言えませんでした。「味」は最高で、そのなかでも「ウニクレソン」は絶品でした。残念ながら、マスターは2年前(?)に亡くなってしまっていて、当時のスタッフ(「息子?」)が店を継いでいました。久しぶりに美味かったな。OBの皆様も機会あれば是非どうぞ。

まだ、仕事はばたついていますが、5月30日(日)高校総体1回戦、銀河高校との試合を21回卒の伊藤君と観戦に行きました。試合前の保護者の数は既に相手である銀河を圧倒、勝利。試合は、互いにビッグチャンスと1度ずつ失敗しPK合戦へ。結果は、皆様ご存知の通りです。選手がベンチに帰ってくるのを待ち、田村キャプテンと握手。言葉は交わさず、「アイコンタクト」のみでしたが、「涙」が止まらず。私、自身ももう30年以上前の苦い記憶が蘇ってくる新鮮な時間となりました。本心に、悔しい気持ちはわかりません。しかし、今後OBとなり、この悔しい気持ちを後輩にさせない為には「現役時代の2年半」をどう無駄に過ごさないか、など後輩に伝える伝道師となり、フィジカル面・メンタル面での育成に関わって欲しいとお願ひしておきます。

さて、今回一部のOBの皆様にはご意見を聴取していますが、「最上段」のグラウンドを「人工芝」にしたいなあと思っております。広島市内でも、瀬戸内・工大・修道等既に芝生のグラウンドになっているのはご存知の通り。これには、違和感を憶えました。現状色々諸問題もあり、ロビー活動を一生懸命しているところではあります。今描いておきますイメージを以下、記させて頂きます。基本、サッカー部のOB会が発起人となり、「芝主」(株式会社で云う所の、株主という意)を募集(寄付金)していくイメージ。OB会組織も医者系列のOB会(35回卒・春間代表)とし発足予定。この、「芝主」のイメージは、毎年恒例の「初蹴り」などにまだ参加した事のないOBもたくさんいると思えます。是非とも、これをきっかけにいやらしい話ではなく、「お父さん」もあのグラウンドに寄りかかっているんだよ」と言っていたら、来るきっかけにもなるといいと思います。尚更ですが、学校自体の広報にもなるかと考えております。が、本音は、私も芝生で試合がしたい!!というのかもしれないウエイトを占めております。私が、この50歳前に広島へ帰って来たのも何かの縁だと思っております。サラリーマンしている為、何年広島にいれるかは不明ですが、ご賛同いただけるのであれば、皆様の助けをいただきながら「肅々」と進めたく思っております。

今回、残念ながら高校総体1回戦で負けましたが、現段階の情報で3年生は5人残ると聞いております。是非選手権では、あの「涙」が悔し涙ではなく、うれし涙に変わる事を期待しつつ我々OBの出来ることを準備していきましょう。最後に、毎年恒例となっております、来年の1月3日「最上段」のグラウンドで逢える事を楽しみにしております。



近況報告

みなさんこんにちは! 24回生の岩井竜彦です。

引き続き高山英樹先生(36回生)と一緒に、中学校サッカー部を担当しています。私自身はどうしても中学校中心の活動になるのですが、できる限り高校の恋蹴や試合にも関わらせてもらっています。

少し立場を変えて高校の様子が見えるようになったことで、あらためて勉強になることも多く、四捨五入したら50歳という年齢に今年なるのですが、これからも日々学んでいかなければと強く感じています。

話は変わりますが、今年の8月1日(土)に、「岡光龍三さんを囲む会」を開催します。年齢の若いOBの方々にはなじみのないお名前かもしれませんが、岡光さんは広島城北サッカー部の第一次黄金期にコーチとして活躍され、クラブの歴史に多大なる功績を残された方です。いわば「広島城北サッカー部の父」ともいえる岡光さんを囲んで、OBのみなさんの懇親をよりいっそう深めていけたらと考えています。

今回の案内は、23回生よりも上のOBの方々に案内を送付させていただいております。ただし、案内の届いていないOBの方でも、是非参加したい、という方がいらっしゃれば、岩井まで連絡をください。(岩井携帯:09046949843 メールアドレス:t-iwai@hiroshimajohoku.ed.jp)

現在高校チームは、残った3年生を中心に選手権に向けた準備を進めています。また、中学校も58名という大所帯になり、よりいっそうの飛躍を目指しています。

つながりを大切にしながら、これからもしっかりと積み上げを続けていきます。今後とも応援のほど、よろしくお願ひいたします。

広島城北高校サッカー部コーチ 岩井 竜彦 (24回生)

QPONのひとり言

25年目を迎えて

世界中のサッカークラブに各々の歴史があります。特に世界で最も古いイングランド・プレミアリーグ(前身のフットボールリーグは1888年に始まった)には歴史のあるクラブがたくさんあります。

プレミアリーグのクラブの始まりは、学校のクラブ、鉄道員中心のクラブ、造船会社のクラブ...と様々です。仲間が集まりクラブを作ってサッカーをして試合相手を求めてリーグを作っていたようです。

歴史があるだけにどのクラブも色々大変なことがあったようで、世界的なクラブであるマンチェスター・ユナイテッド(1878年創設)でも破産があり2部降格もありました。

我々の広島城北サッカークラブにもみんなが積み上げてきた歴史があります。たくさんの方々がプレーまたは様々な形で関わって頂き成長してきました。

私も最上段で指導をはじめ25年目を迎えています。

この間、様々な出来事がありました。私自身の気持ちにも変化があり、戦績も浮き沈みがあり、特にこの2・3年は若干の停滞感があります。

今一度私自身の魂に火をつけ先輩方から受け継いだクラブをなおい層発展させ後継者に繋いでいきたいと思います。

8月1日に予定されている『岡光龍三さんを囲む会』で、みなさまからパワーをいただきたいと思ひます。

広島城北高校サッカー部監督 宮本 誠 (19回生)